

患者様の心にいつも寄り添って

エキサイだより

vol.
106

2021
winter

ご自由にお持ち帰り
ください

[特集]

最新鋭の救急医療設備

「ハイブリッドERシステム」運用開始!

救える命をより確実に救うために

[やさしい医学]

冷えは万病のもと

からだを冷やさない工夫と対策

[旬を食す]

小豆



雪 山村暮鳥

きれいな

きれいな

雪だこと

畑も

屋根も

まっ白だ

きれいでなくって

どうしましろう

天からふってきた雪だもの



2020年12月
救命救急センターが
リニューアル

最新鋭の救急医療設備

「ハイブリッドERシステム」運用開始！

救える命を

より確実に救うために



脳神経外科部長
鈴木 宰

副院長・救命救急センター長
北川 喜己

救急科医員
萩原 康友

救急科医員
小川 健一朗



動作の様子をぜひご覧ください。

Hybrid ER System
の導入目的とご紹介



2020年12月より、名古屋掖済会病院の救命救急センターが大幅にリニューアルし、最新鋭の医療設備「ハイブリッドERシステム」の運用がはじまりました。これにより、救える命が少しでも増えることを担当医師たちも期待しています。今回のリニューアルで、どのような点がレベルアップしたのか、ご説明いたします。

東海地方を牽引する 救命救急センターとして さらなる進化を

当院は、昭和53年に東海地方で初めて救命救急センターの指定を受けた病院です。受け入れる患者様は年々増加を続け、2006年には現在の場所に新たな救命救急センターを開設しました。

現在受け入れている救急の患者様は、年間4万人にのぼります。私たちは、医療の進化とともにつねに最善の治療を提供してきたことを自負していますが、「もっとこうできれば...」「どうすれば、救急医療の質を向上させられるだろうか...」と、つねに自問自答を続けてきています。

そこに登場したのが、「ハイブリッドERシステム」です。医師たちの誰もが、「これで救える命をさらに増やせる」と直感しました。

その情報を得ると、当院では早速検討に入り、このたびの救命救急センターの新たな運用に漕ぎ着けました。

患者様の負担軽減と 時間短縮を実現

では、「どのような点が進化したのか」についてお話ししましょう。

これまでは、救急で運び込まれた患者様は救命救急センターの診察台でさまざまな診察と処置を受け、詳しい検査が必要であればCT検査室へ、緊急手術が必要だと診断されれば手術室へ、というように移動せざるを得ませんでした。

現在でもほとんどの病院が同じような環境下で治療にあたっています。

しかし、交通事故で重傷を負った患者様や、脳梗塞で意識がもうろうとされている患者様の移動は、「自身に大きな負担をかけることになり、出血のある方であれば、移動させて別のベッドにそと置き換えるだけでも、その振動が引き金となって出血の量が増えてしまうこともあるのです。」

ところが、今回導入した「ハイブリッドERシステム」では、センターの中央に診察台が据えられ、そのまま放射線撮影ができる仕組みになっています。その周りには、CT撮影やカテーテル手術に必要な医療機器を配置しているので、患者様はまったく移動せずに治療を受けられるのです。

そして、移動時間の短縮は、診察や治療に着手するまでの時間短縮を意味しています。救命救急医療は、時間との勝負。可能な限り早い処置を行うことが、命を救う可能性を格段に高めてくれるのです。

このたびのリニューアルによって、当センターの心臓部を飛躍的に進化させることができました。

地域の中核病院として さらなる安心を届けたい

この設備は東海北陸地方では初めての設置であることから、当院の救命救急センターでの運用は注目を集めています。救急医療にあたる看護師や医療スタッフも、新たな職場での確に動けるよう研鑽を積み、万全の体制で臨んでいます。

地域にお住まいの方々にも、ぜひこのことを知って、「家族で情報を共有していただきたい」と思っています。

そして、「いざという時には躊躇なく私たちに頼ってください。もちろん「断らない医療を貫く」という信念は、これまでも、これからも、変わることはありません。名古屋掖済会病院は、安心できる地域づくりを医療の面から支え続けます。」

News 01

エキサイ健康教室 動画配信のお知らせ

新型コロナウイルス流行拡大のため、長らく中止しておりましたエキサイ健康教室を動画にて配信中です。病院ホームページより閲覧できますので是非ご視聴ください。



インフルエンザの症状・検査
小児科 部長 星野 伸



左記QRより
エキサイ健康教室を
ご視聴いただけます

News 02

2020年12月より オンライン診療を開始しました。

緩和ケア病棟入棟審査・禁煙外来・セカンドオピニオン外来のオンライン診療を始めました。
これにより、来院時の交通費・交通時間が省かれコロナリスクをさげられます。

緩和ケア入棟審査

紹介状、その他検査情報必須で事前に当院に送付が必要です。

禁煙外来(再診のみ)

2回目以降、病院に来るため仕事を休まなくても休憩中などに受診可能な保険診療です。(初回は来院が必要です)

セカンドオピニオン外来

紹介状(診療情報提供書)、その他検査情報等参考になるものが必須で事前に当院に送付が必要です。
※セカンドオピニオンとは…患者さんにとって最善だと思える治療を患者と主治医との間で判断するために別の医師の意見を聞くこと。

News 03

「新型コロナウイルス対策」 紫外線照射殺菌装置 MoonBeam3を導入しました

紫外線照射殺菌装置 MoonBeam3は、紫外線照射により、高速かつ効果的に目に見えないウイルスを殺菌する装置です。従前の装置よりコンパクトで持ち運びがしやすく、可動性に優れているため、清拭消毒がしにくい場所の殺菌にも効果的です。



当院のコロナ対策

地域医療センター編



WEBを利用したカンファレンス

患者様が退院される際、退院後も安心した生活が送れるよう患者様やご家族、往診医の先生、訪問看護師、ケアマネージャーと入院中の主治医、病棟看護師、退院調整看護師とが連携して「退院前カンファレンス」を行なっています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、院内外の多職種が集まるのが難しくなっていました。
それでも質の高い連携を維持していきたいと考え、オンラインを活用した退院前カンファレンス「えきさいWebケアミーティング」を導入。
これにより直接病棟に来られなくても多職種連携が可能となりました。
また、他施設との定期的な交流会や病院同士の情報交換を行う「病病連携システム連絡会」等もオンラインで開催。地域医療連携の重要なツールとなっています。



小正月とは、1月1日を中心とした正月行事。大正月に對し、1月15日に行われる行事のことを言います。古来より、赤色の食べ物には邪気を祓うとされ、現代でも小正月には一年間の無病息災を願うという意味で小豆粥を食べる風習があります。

ぜひ皆さんも小豆粥を食べ、一年間の無病息災を願いましょう。

今月のテーマ
「小豆」



小豆粥

材料 [2人分]

- 米 1/2カップ
- 乾燥小豆 30g
- 水(茹で用)※1 適量
- 水(煮る用)※2 500mL
- 水(炊く用)※3 350mL
- 塩 小さじ1/4

木の芽(飾り用)

作り方

- 鍋に乾燥小豆を入れ、小豆が浸る程度の水(※1)を注ぎ中火にかけます。沸騰後2分茹でたら茹で汁は捨て、小豆をザルにあげます。
- 鍋に①を入れ、水(※2)を注ぎ中火にかけ、沸騰したら弱火で30分茹でます。
※アクが出る場合は取り除きます。
- 小豆の芯が少し残る程度で茹で汁200mLを取り分け、小豆をザルにあげます。
- 米を洗います。鍋に米、水(※3)、③の茹で汁を加え、米を30分浸水させます。
- ④に塩と③の小豆を加え、沸騰するまで中火にかけます。沸騰後、弱火で30分炊きます。
- 器に盛りつけ、木の芽を飾れば完成です。

ひとくちメモ
無糖の茹で小豆を使用することで、調理時間の短縮にもつながります。

今回のテーマ
冷えは万病のもと
からだを冷やさない工夫と対策



冷えが引き起こす
さまざまな症状

冬の寒さよいよ本番。冷え対策は万全でしょうか。冷えは“ちょっとした不調”と思われがちですが、実は万病のもと。冷えは頭痛、腹痛、便秘などの身体症状だけでなく、不眠ややる気がしないなどの精神症状も引き起こします。(表1) 冷えの原因として膠原病、甲状腺機能低下症、貧血、低血圧などが考えられますが、検査しても明らかな異常が見つからない場合がほとんどです。

表1

身体症状 首や肩のこり、腰痛、頭痛、倦怠感、肥満、など	精神症状 やる気がない、抑うつ、イライラ、不眠、など
免疫力 体温の低下は免疫力にも影響する可能性あり	美容面 肌のくすみやかさつき、皸肌、たるみ、など

昔よりも
冷えやすくなっている

現代の生活環境では、だれもが一年中冷えを感じやすくなっています。一年中食べられる夏野菜や南国の果物は体を冷やす食材です(表2)。朝食を抜いたり、夜更かしをするなどの生活リズムの乱れや運動不足も冷えを助長します。

表2

からだを温める食材 ショウガ、山椒、ニンニク、ネギ、ニラ、シソ、ナツメ、カボチャ、アズキ、クルミ、シナモン、唐辛子など	からだを冷やす食材 レタス、トマト、セロリ、キュウリ、セリ、ナス、バナナ、パパイヤ、マンゴー、スイカ、メロンなど
---	--

からだを冷やさない
生活の工夫

からだを冷えから守るためシャワーばかりではなく湯船につかり十分からだを温めましょう。また、簡単に長く続けやすいおすすめの方法は、起床後に1杯の白湯を飲むこと。体の芯から温まります。日常生活を工夫して冷えからからだを守りましょう。



医師からのひとこと

冷え対策の基本は「頭寒足熱」です。まずは足元、下半身を重点的に温めましょう。

産婦人科 部長 高橋典子



〒454-8502 名古屋市中川区松年町4-66
Tel<052>652-7711 Fax<052>652-7783
<http://www.nagoya-ekisaikaihosp.jp>